平成元年度　日本体育協会スポーツ医・科学研究報告

No.IX　スポーツ外傷・障害の発生と予防に関する疫学的研究

—第1報—

班　　長　高沢晴夫[1)]

班　　員　河野一郎[2)]　増島篤[3)]　島田信弘[4)]

山本巧[5)]　麻生敬[6)]

目　　次

I．ラグビー選手におけるメディカルチェックとその後の経過（その1）
——筑波大学ラグビー部員について——

II．ラグビー選手におけるメディカルチェックとその後の経過（その2）
——早稲田大学ラグビー部員について——

III．女子バスケットボール選手におけるメディカルチェックとその後の経過

IV．スポーツ選手におけるメディカルチェックと健康管理のためのデータ管理プログラムの開発

はじめに

スポーツ外傷，障害はスポーツを行なう上では，その発生はある程度はやむをえないところはあるが，出来るだけそれを予防することがなにより望まれるところである。

しかし，実際はそれほど容易なことではない。

スポーツ外傷，障害を予防するためには，その発生要因を知ることがまず第一である。

また，スポーツ選手のメディカルチェックと健康管理を適切に行ない，そのデータを有益に活用できるようにしなければならない。

このようなことはなにもトップレベルの選手に限るものではない。あらゆるレベルのスポーツを行なっている人達にも当てはまるものである。

外科的な面からのメディカルチェックでは外傷，

1）横浜港湾病院　2）筑波大学　3）東芝中央病院　4）高座病院　5）早稲田大学　6）東京衛生学園専門学校

障害の頻度が高いので診察にさいしては，これらの既往についての問診が大事である。それが現在どの程度訴えとして，自覚症状として残っているか，また，直接診察の所見が得られるかである。

それと同時にそれらのスポーツ外傷，障害がどのようにして発生したかを調査することで，危険因子を知り，再発の防止がはかられ，さらに，その結果は個人のみならず全体にも生かされるであろう。

また，一つのチーム全員をある期間定期的にメディカルチェックを行なうとともに，外傷，障害にたいしては治療はもちろんであるが，その発生状況を詳細に調査することにより，その期間におけるスポーツ外傷，障害の発生率が正確に得られるだけでなく，予防に際しての重要な判断材料となる多くの条件，危険因子を得ることが出来る。

その結果，適切な予防対策をたてるのになんらかの参考となるのであろう。また，発生率の高い外傷，障害にはとくに注意をはらいながら練習計画をたてることが出来る。

一方，復帰までの経過が把握出来るので，その間のトレーニング管理が有効に行なえるであろう。

本年度は大学ラビグー部，実業団女子バスケット部を対象としてスポーツ外傷，障害の疫学的調査を行なうとともに，そのメディカルチェックとその後の外傷，障害の経過をフォローし，データを有効に管理していくために，データベースを作成した。

（高沢晴夫）